

東日本大震災

から4カ月



1と5月初めまで避難所での生活を余儀なくされておりました。

多くの尊い命、住み慣れた家や街並み、見慣れた工場、そして毎日手を入れていた田畑など、私たちが長い歳月をかけて築き上げてきた大切なもの、そして一人ひとりの思い出までも、一瞬にして奪い去った未曾有の大震災から早4カ月が過ぎました。

中で、市内で135名、他市町で14名の149名の市民の方々が犠牲となられました。この大震災により無念にもお亡くなりになられました方々に、ここに心から哀悼の誠を捧げます。

岩沼市は、近年二度の水害(8・5、9・22)を経験し、阿武隈川の堤防を補強したり、五間堀川の排水機場の整備を行いました。また、高潮等に備えて太平洋沿岸の無堤防地区の解消や海岸浸食対策としてのヘッドランドの設置など積極的に災害対策を進めてまいりました。しかしながら、昨年の西日本や奄美大島での集中豪雨、記録的な猛暑、新潟県での群発地震など日本各地での自然災害の報道

3月11日午後2時46分、私は市議会議事堂で生涯二度と忘れることがないであろう恐ろしい揺れを全身に感じていました。余震が幾度となく続く中、急ぎ車で自宅にとつて返し、広報活動をしている消防団、町内会役員に「早く逃げるよ!」と伝え、相野釜町内の皆さんと仙台空港ビルに避難したところであの大津波に襲われました。

当時、仙台空港には1300人が避難していて、外国人のほか全国各地の人々もおり大変な状況でした。空港に5泊6日、その後、ふたき旅館、農村環境改善センタ

共に頑張ろう!

市内では、市民の命を守るために、自らの危険も顧みず懸命に避難誘導などの任務に当たられて被災された行政区長1名、消防団員6名、町内会役員数名、市職員4名、警察署員数名を含む181名

のご遺体が収容され、地域の約半分に当たる29平方キロメートルが浸水し、2600戸を超える住宅が流出するなど壊滅的な被害がありました。死亡が確認された方の

を見聞きするたび、大自然の脅威を前に人間がいかに無力であるかを痛感させられておりました。

私たちは、この度の大震災で本当に多くのものを失ってしまいました。しかしながら、命の尊さ、人と人の絆、思いやりの心など、たくさんの方々の教訓を得るとともに、この教訓を風化させず、百年、千年先の後世に継承していくという大きな使命を課せられることにな

りました。

大震災からこれまで市民の皆さま、自衛隊、そして関係機関の皆さまやボランティアの皆さまの力を頂き、ライフラインの復旧や仮設住宅の建設などの復旧作業が進められてまいりましたが、これからは、千年希望の丘構想をはじめとする復興計画を着実に推進し、今後は災害に強い安全・安心のまちづくりに向かってまい進してまいります。

そして、亡くなられた皆さまの大きな犠牲と全国各地からいただいた温かい善意の心に報いていくためにも、私たちは震災前の岩沼に負けない元気のあるまちになるよう、復興に向けて取り組んでいかなければなりません。これからの復興は、私たち市民一人ひとりの頑張りに負うところが大きくなってまいります。道のりは決してやさしいものではありませんが、市議会としても元気な岩沼の復興に一生懸命取り組んでまいることをお約束いたします。

市民の皆さん、
共に頑張りましょう!

岩沼市議会議長

沼田健一